

行事名	宮城県教育研修センター視察		
担当部門・機関	理科教育支援部門		
視察期間	平成 22 年 1 月 12 日 (火) 13 : 00 ~ 15 : 40	用務先	宮城県教育研修センター (宮城県仙台市青葉区)
<p>《視察の目的》</p> <p>(1) 理科授業のためのマニュアル集の作成、(2) 「科学巡回訪問」というユニークな理科教員支援活動を行っている宮城県教育研修センターを視察し、「科学T r yアングル岡山」が構築を目指す理科教員支援・養成プログラムづくりのための情報収集と交換を行う。</p>			
<p>《担当者》</p> <p>連携機関より、教員の稲田、職員の大山（以上、岡山大）が訪問。また、岡山県総合教育センターより塩崎氏が、小中学校教員・指導主事としての見地からの視察のため、同行した。</p> <p>宮城県教育研修センター側は、所長の齋藤氏、副所長の鈴木氏のほか、情報交換では、主幹の狩野氏、牛来氏に長時間に渡りご対応いただいた。</p>			
<p>《報告事項》</p> <p>情報交換の内容を以下に記す。</p> <p>（1）理科授業のためのマニュアル集作成について</p> <p>担当が、この視察で最も注目した点が、宮城県教育研修センターのマニュアルの作りであった。既成の指導書と一線を画す点は、板書法を授業の流れに沿って図で提案していることで、その発案と作成の経緯を聞いた。もともと同センターのマニュアルは、(2) の「科学巡回訪問」時に配布する指導案として作られたもので、板書の方法までを掲載するに至ったのは、巡回時に行われる模擬授業をわかりやすく伝えるためであった。また、これは、所属の専門研究員（6ヶ月～1年の研修員）らの試行錯誤の末の結果であることも聞く。</p> <p>マニュアル作成の際、同センターが心がけるのが、「誰を対象にした指導書が必要であるのか（マニュアルを手にするのは、必ずしも理科の専属教員ではない）」、「専門を追求せず、教科書に準拠する＝共通の理解を目指す」ことだと言う。</p> <p>（2）「科学巡回訪問」について</p> <p>同センターでは、40余年前より、理科の備品の乏しいへき地校・小規模校を対象に「科学巡回訪問」を行っている。毎年、希望を募り、100校程度の応募の中から過去の訪問回数が平均になるよう20校を選ぶ。午前中は児童を対象にした科学ショー的な実験を行い、午後は訪問校・同管区の教員を対象に研修、模擬事業を行う。また、研修の中で理科実験室の片付けの指導を行う等、実践的かつ実務的な内容となっている。</p> <p>巡回訪問に当たるのは、同センター所属7名の職員で、公用車として宮城県が購入した「科学巡回バス」を利用している。県からの予算で行い、その金額も内容の充実度に対して、驚くほど少額であった。</p> <p>担当として、この科学巡回訪問の手法と、マニュアル集の作りを何らかのかたちで、連携事業に活かしたいと感じる。</p>			

